

岳連
ニュース

宝永

URL: <http://www.shizuokam.com>

静岡県山岳連盟
〒420-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL (FAX) 054-288-7512
編集発行/総務委員会
平成28年9月5日発行
第18号



平成28年度国体山岳競技東海ブロック大会(愛知県主催)は、会場の関係でリードを本県の浜松のスクエアにて、ボルダリングを愛知県豊橋市のカクタス2神野新店と両県にまたがって実施された。成年女子と少年女子が1枠、少年男子が2枠の代表枠を目指して競技した。

1日目のリード競技は、成年と少女が共通ルートで、少年は専用ルートで行われ、ルートはいずれも正面のメイン壁に引かれた。成年女子は、本県

の北脇が、うまくまわって全体の2位、望月は、ホールドを見落とし難しいムーブで予想外のフォールとなり、全体の3位となったが、チームとしては1位で翌日のボルダリングに駒を進めた。各県とも、全国代表クラスのエースを抱える少年女子は、三重の田嶋が一步抜けたし1位、本県の中村は、3位で、チームとしても3位の苦しいスタートとなった。少年男子は、ルーフの最大傾斜部を進む厳しいルートで、岐阜の日比野が完登に迫るトライで、他を圧倒した。静岡は、望月と河合がよく健闘したが、順位点10で愛知、三重と並び、上位順位もつ他県が上位に入り、4位スタートとなった。

2日目のボルダリングは、カクタス2に会場を移し熱戦が繰り広げられた。まず、成年女子の2名は、第一課題で苦戦し



種別	県名	ボルダ	リード	総合
成年女子	静岡	1	1	1
	愛知	3	3	3
	三重	4	4	4
	岐阜	2	2	2
少年男子	静岡	3	4	4
	愛知	2	3	2
	三重	4	2	3
	岐阜	1	1	1
少年女子	静岡	4	3	4
	愛知	3	4	3
	三重	2	1	2
	岐阜	1	2	1

したが、2完登の三重の田嶋の次は、5名が1完登となった。岐阜以外の3県はここでも順位点10で並び、リードと同じように、上位順位を持つている選手のいる県が上位に入るようになった。

静岡の成年女子はよくまとめて総合1位で昨年に続いての本国体出場となった。本国体では、両



種目とも入賞、また上位進出に期待したい。少年は男女とも接戦には持ち込んだがあと一步で代表枠を逃した。オリンピック競技となり、ユース世代の層が厚くなっていることを実感した大会であった。

成年女子 1位 監督 難波利行、選手 望月香菜子(宇都宮大)・北脇順子(日体大) 本国体出場

少年女子 4位 監督 黒川勝、選手 村祐香梨(浜松日体高)・勝本真衣(宮西高) 少年男子 4位 監督、森下峻也、選手 望月衛(宮西高)・河合康太(浜松日体高) (諸戸明)

6月常任理事会

日時 6月14日(月) 18時30分〜20時30分
場所 労政会館 5F
会議室
出席者 滝田博之、清水雄三、木ノ内高嘉、前川朝夫、出利葉義次、豊田稔、堀内修、工藤誠志、松永義夫、大石一博、小田直美、鈴木修、田中保広、内山一彦、坂田昇、市川隆夫 浅井徹
木ノ内理事長挨拶
総会で役員改選が行われ、新常任理事の方々による初の常任理事会です。私たちこのメンバーで28年29年度の2年間、当山岳連盟の運営を行うので宜しくお願いします。
滝田会長挨拶
今総会で役員改選が行われ、新しく2人の方が常任となり、私も引き続き会長を務めることになったので宜しくお願いします。先月29日、日山協の総会が有り、20年東京オリンピック追加種目にスポートクライミングが追加種目になったことから、日山協の会長が前会長…神崎さんを代表とする諮問委員会を設け、日山協を中央競技団体とするあり方について検討された。その中で「日本山岳協会」を「例 日本山岳・スポーツクライミング協会」に名称変更する案等が出ている。その他、選手の競技力向上策等の話が有ったと報告挨拶があった。

①各委員会の報告
①指導委員会(工藤常任) a指導員自主研修活動について報告 5月8日富士山富士宮口で実施しピッケルの使用方法について検討した。
b日山協 指導委員会総会の報告
・クライミングがオリンピック種目に採用されたことから「日本山岳協会」の名称変更案が浮上していること。
・「夏山リーダー制度」の構築、「国際山岳連盟(III)」の山岳指導員資格者制度との連携に向けて 日山協・指導員制度の課題、登山経験と指導員の間に「リーダー」資格がないことから、「夏山リーダー資格」の創設案が有る等の説明があった。

②国体委員会 (木ノ内理事長代)
・5月3日(火)第71回国体静岡県予選会の実施報告があった。会場 リード競技 浜松スクエア、ボルタリング競技 B・SPO Tで実施。
参加選手 成男 4名、成年 3名、少年 22名、少女 11名+オープン1名、役員 12名、審判員4名、 ルートセッター2名
成績
成男 1位 田邊匡律 2位 伊藤優輝 3位 鈴木正信
成年 1位 望月香菜子 2位 北脇順子 3位 渡辺亜梨沙
少年 1位 河合康太 2位 望月衛 3位 岩崎雅人
少女 1位 中村佑香梨 2位 勝本真衣 3位 深澤瑠衣
少女種別にオープン参加の中学生が上位入賞し、将来が楽しみです。
・東海ブロック大会が7月16日〜17日愛知県で開催され、少年男女及び成年の3種別の選手が、本大会出場権を争う。
・成年男子は、県予選1

位と2位の選手が、国体出場することを報告し承認された。
(2)計画
①夏山登山教室(小田常任)
今回で4回目、募集15名、2〜3日前に集まった、キャンセルを見込み17名位まで受け付け予定。
②少年少女登山教室(鈴木常任)
小学5・6年生及び中学1・2年生とその家族を対象とする。募集定員は10組・20名。実施日は7月29日〜30日。事前説明会を、7月23日14時から静岡労政会館及び富士駅南まちづくりセンターで行う。
③秋山登山教室(田中常任)
・10月22日・23日 八ヶ岳 赤岳に登る 小屋泊まり自炊とする
募集 8月1日から15名、説明会 9月28日静岡労政会館で行う。
④「山の日」の行事(滝田会長)
・記念講演会と写真展 8月11日「あざれあ」で開催。講演内容①高くなっていく南アルプス、②山での病気とケガ

・記念ハイク 10月16日ふるさとの山に登ろう。3地域で実施。東部 宝永山と宝永火口、中部 大日峠と魔線小路、西部 湖西連峰大知波峠を計画。
⑤スポートフェスについて(堀内常任)
・9月24日・25日 富士山五合目周辺で実施。Aコース 1泊2日20名 中央青少年交流の家(テント泊) 参加費3千500円。
Bコース 日帰り 50名 御殿場登山口新五合目〜幕岩〜双子山 参加費千500円
⑥東海ブロック大会・愛知県担当 7月16日・17日開催。
16日リード競技(浜松スクエア) 17日ボルタリング競技 豊橋(カクタス)。
⑦東海ブロック正副会長・理事長会議
・今年は愛知担当だが4県の日程調整が付かず延び延びとなっている。来年は、静岡の予定。
⑧h29年岳連カレンダー・総会で承認されたことから、例年通り発行する。8月に納入される見込みで、9月から配布できる。

③その他
①熊本地震災害について 日山協義援金を如何するか又は岳連としてまとめて出すか検討したい。
②指導員研修について 実績報告が厳しくなっている (前川朝夫) 編集後記
日山協の名称変更が話題となっている。五輪種目のスポーツクライミングの競技団体が日本山岳協会では一般人には全く競技のイメージが湧いてこないこないだろう。団体名で競技種目がすぐ想像できることは競技団体・競技種目の双方に必要なことと思う。
60年に1度の庚申の年、富士山が誕生したという伝説があり、この年を、富士山信仰では「御縁年」とし、1回の登山の御利益が33回分とも伝えられている。今年は申年、庚申でなくとも「小縁年」とされ、例年よりご利益があるという。今年登った人達に何か良いことのあることを期待したい。(TK)

大展望と花々の唐松・五竜岳

第4回夏山登山教室 座学 実習登山

指導委員会主催の夏山登山教室も、今年で4回目である。内容は、これまでと同様、1回の練習登山と2回4時間の座学をセットにして募集するもので、メインの山行を、今年は唐松岳・五竜岳の縦走とした。練習登山は、昨年と同じ、安倍奥山伏岳である。

昨年あたりから応募者が次第に安定してきていて、今年も定員をオーバーして17名の応募があった。リピーターも増えてきていて、この教室が少しずつ定着してきていることを感じた。その後、キャ



五竜岳の山行は素晴らしい天候に恵まれた。正面に広がる鹿島槍や剣岳の大展望と咲き乱れる花々に、皆さん大感動であった。

「歩行技術と安全対策」という四つのテーマで行った。

座学と実習登山、どちらも参加者の皆さんは大変意欲的で、楽しく充実した教室となった。リピーターの方々からは、読図

正副会長・理事長会議

平成28年度の東海ブロック正副会長・理事長会議が7月30日、名古屋工大3号館16室にて開催された。日程の調節が付かず延び延びになっていた会議であったが7月16日の東海大会の折り急遽決まった。本県からは前川副会長、木ノ内理事長が出席した。他参加者は三重、亀井会長、居村理事長、松尾競技委員長、岐阜、塚原理事長、愛知、安藤会長、北村理事長の8名であった。

各県の状況および関連の討議として次のような議題が上がった。

第37回東海ブロック大会の報告および課題

- ・国体出場は成女静岡、少男岐阜、愛知、少女岐阜と報告があった。
- ・会場費はルートセッター

外とした。

- ・できればクラブ化を進めていくことが望ましい。(三重のカモシカクラブのように)
- ・周知は山岳連盟のHPや登山教室の開催を新聞やSNSを活用して発信している。

登山

- ・昨年度の事故事例 金華山 5月連休の搜索例(岐阜)鈴鹿山系 昨年度の遭難の一欄が提示される(三重)
- ・インドアからアウトドアへ出る人のフオロワー確保失敗事故が増加している。(三重)
- ・安全登山の啓発活動 登山教室などを通じ行っている。(各県)
- ・愛知では最低限の安全登山ガイドブックを作成した。
- ・確保技術ハンドブックを国立登山研修所で作成したので活用してほしい。

山の日行事

- ・「ふるさとの山に登ろう」などの各県の行事が紹介される。(各県)
- ・山の日記念行事期間。7/11を6/10月に拡大するよう日山協への要望とした。(各県)

その他

- ・富士山夏山情報(静岡)、伊吹山(側道問題の検討中、岐阜)
- ・高齡化と若手育成
- ・岳連のHPでクラブ連絡先一覧を掲載、各クラブへリンク可能にしている。(岐阜)
- ・高校山岳部など課外活動指導者の不足が深刻である。(多くが50歳代、10年後が問題)(各県)

東海ブロックでの全国行事

- ・21年三重国体
- ・18年インターハイが三重の鈴鹿で開催。5百名規模の登山となるので協力依頼があった。(三重)
- ・21年国体の関連施設として菰野町にクライミングウォール建設の提案中、救助研修や強度試験なども可能な施設を希望している。

日山協の名称

- ・新名称 「日本山岳・スポーツクライミング協会」について意見交換するも、オリンピックとの関連で変更もやむなしが大方であった。

(木ノ内高嘉)

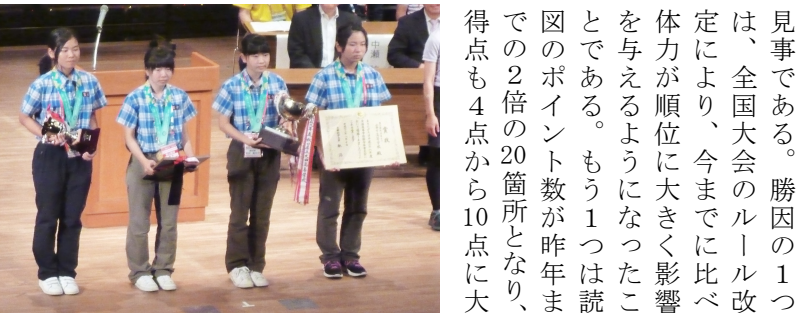
初出場で全国制覇の栄冠

【全国高校総体】富士高山岳部女子

全国高等学校総合体育大会登山大会が8月6日、10日に岡山県の蒜山山系、毛無山・浅鍋鷲ヶ山を会場として行われた。

静岡県からは、男子は浜松日体高校が昨年に引き続き2年連続3回目の出場、女子は県予選で富士宮西高校の20連覇を阻んだ富士高校が初出場を果たした。

昨年の滋賀大会同様で連日の猛暑で過酷な戦いであった。熱中症によりリタイアする学校が相次



見事である。勝因の1つは、全国大会のルール改定により、今までに比べ体力が順位に大きく影響を与えるようになったことである。もう1つは読図のポイント数が昨年までの2倍の20箇所となり、得点も4点から10点に大幅に引き上げられたことである。この2つの改正により競技性がかなり高まったといえる。女子で読図の満点のチームは富士高校を含めわず6チームしかない。体力に加え読図力の高さが大きな武器となった。

一方、男子代表の浜松日体高校は23位であった。体力的には全く問題がなかったが、読図で2ポイント落とすなど、細かい減点が積み重なって順位を下げてしまった。男子は女子以上に、各県代表の力が拮抗している。読図の満点も女子の倍以上の14チームあった。僅かなミスが致命的となる。

山の日記念講演会

山の日制定記念講演会と静岡県の山々写真展を8月11日、祝日山の日に静岡市の「あざれあ」で開催した。静岡県内の山岳4団体が組織した「静岡山の日実行委員会」の主催で、県内各地より200余名の参加者があり、興味深げに拝聴した。

講演会は2部構成で「高くなつていく南アルプス」の演題で松島信幸氏、「山での病気とケガ」と題し野口いずみ氏が講演した。

南アルプス夏山相談所開設 単独登山者 中高年者の事故多し

南アルプスの夏山相談所が、7月16日から8月31日までの47日間、畑薙臨時駐車場で開設された。

県遭対協からの要請により、県岳連から指導員を派遣し井川山岳会の会員と静岡市岳連の会員と共に、登山者の相談、指導及び、天候や登山道の状態など



の情報提供を行い、安全登山の一翼を担った。

今年の夏山は台風の影響もなく好天に恵まれた。長野県側の道路の復

旧が遅れ一般車が入れないため、静岡県側から登ることになり、登山者は平成25年の最大数をさらに上回る結果となった。

年々単独登山者や女性の登山者が増え事故も増加しているが、約7割が単独登山者ではないかと、地元で言っていた。事故は、赤石岳等で転倒し骨折したり疲労で動けなくなるなど、中高年登山者の事故が多発している。

(滝田博之)

【男子】

- 1位 千葉東(千葉)
- 2位 防府(山口)
- 3位 広島学院(広島)
- 4位 長崎北陽台(長崎)
- 5位 神戸(三重)
- 6位 膳所(志賀)
- 23位 浜松日体(静岡)

【女子】

- 1位 富士(静岡)
 - 2位 就実(岡山)
 - 3位 盛岡第一(岩手)
 - 4位 大村(長崎)
 - 5位 防府(山口)
 - 6位 甲府第一(山梨)
- (清水雄三)

るのは、プレートとプレートが衝突しそこが盛り上がるからで、南アルプスの標高は測量のたびに高くなっている。リニアのトンネル掘削に地球の摂理を無視してまで利便性を求めるべきではないと懸念を示した。野口氏は登山行動中は血圧が上昇し心拍数が増加するので循環器系の病気に注意すること、けがの時は早くRICES処置を行うこと等を話され、身体面からの山岳事故予防の知識を得ることができ、有意義な講演会となった。

(木ノ内)